

ヴィジョンと美的感覚

カール・デ・ケイザー Carl De Keyser

一九五八年、ベルギー生まれ。七七年、八一年、
ゲントのロイヤル・アカデミー・オブ・ファイ
ン・アーツにてフィルムと映画を学ぶ。八四年
、八九年まで同校で教鞭をとるかたわら、イン
ドや旧ソ連を取材し、写真集を刊行。九〇年
W・ユージン・スミス賞受賞。九四年よりマグナ
ム正会員。在ゲント。

二〇〇〇年九月、写真家集団「マグナム」に所属するベルギー出身の写真家、カール・デ・ケイ
ザーに編集部から、次のような手紙を送った。

「今回『写真集をよむ』という本を編集するにあたり、現在活躍している写真家に「写真集」につ
いて語っていただいています。現在の写真状況を眺めたとき、マグナムは欠かせない存在であると
考えます。マグナム報道写真というイメージが先行するなか、デ・ケイザーさんの大胆な画面構
成と、現代の姿を色濃く表す民衆の写真に注視せずにはいられず、是非お話を伺いたいと思いまし

た。以下の質問にお答えいただければ幸いです。」

一〇月一七日、カール・デ・ケイザーから返事が届いた。それは彼の写真の計算しつくされた画
面構成同様に、きわめて明確かつ簡潔的を射たものであった。

1 最も好きな写真集のタイトル、写真家名を教えてください。

——ゲイリー・ウイノグラントの“Public Relations”。

2 その写真集はいつどこで見つけましたか？

——一九八二年、ベルギーのゲントの古本屋で。

3 その写真集のよさを語ってください。

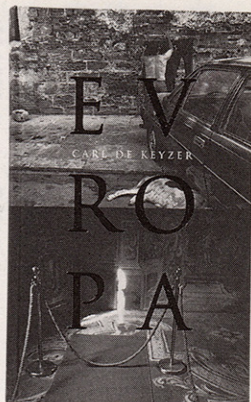
① 写真家としての視点から

——複雑なコンポジション、複数の物と人物が同時に役割を果たしていること。フラッシュの使い
方。

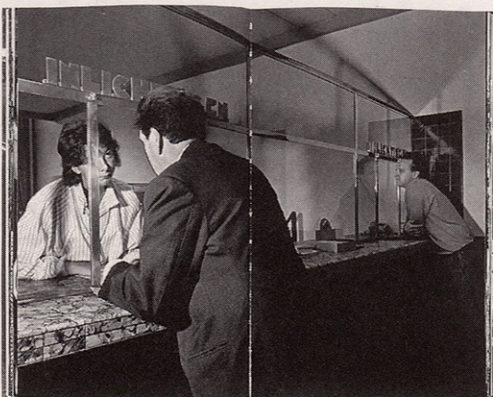
② 個人的な視点から

——一〇〇%定かではないのに、物事が正しい位置にあるという感覚と直感が駆使されていること。
政治的できごとに対する皮肉かつ抽象的かつ美的アプローチ。

4 ご自分の写真の作風への影響はありますか？



EVROPA
(LUDION Press, 2000)



—— あります。

5 魅力的な写真集とはどのようなものでしょうか？

—— ヴィジョンと内容と美的感覚のコンビネーション。

6 写真集を作ることになったきっかけや、インスピレーションを与えられたものを教えてください。

—— 最初の写真集『India』の商業的かつ芸術的成功。

7 写真集を作る上でのこだわりは？

—— デザイン、内容、印刷の質。

8 構成のポイントとは？

—— バランス。

9 写真を撮る時に写真集を意識することはありますか？

—— 最初から写真集にする予定がある場合は意識しています。しかし私はたいていの場合、プロジエクトを最初に考えたうえで写真を撮っているのであって、過去に撮りためた写真を集めて写真集にすることはありません。

10 書籍という形になった写真とプリントの違いは？

—— 感触と質が違います。プリントの方が、レベルの高いものを要求されます。また、写真集の印刷の質を満足のいくものにするには、プリントよりもたいへんです。なぜなら、出版社や印刷会

社の現場の人々とやりとりしなければいけないからです。

11 写真集の中で思い入れのある写真はありますか？

——特に思い入れが強いというものはありません。常に最新のものが最高のものかと思いたいのです。

12 マグナムに所属する理由は？

——九四年、(マグナムの) 正会員による評議会では選ばれたからです。※

※正会員になるには、まずノミニーと呼ばれるメンバー候補生として試験的に組織に参加し、その後準会員となる。さらにマグナムの年次総会において現正会員の三分の二以上の賛同を得て初めて正会員となることができる。ノミニーに選出されるのは毎年多くて二名、該当者がいない年もある。

13 過去から現在までの写真のテーマと、そのテーマを選んだ理由は？

——インド (“India”)、ソビエト連邦 (“Homo Sovieticus”)、アメリカの宗教 (“God Inc.”)、東欧における経済体系の変遷 (“East of Eden”)、保守的なヨーロッパとその過去 (“EUROPE”)。

14 次はどんなテーマで、どんな写真集を作られるのですか？

——“Tableaux d'Histoire” (ヒストリー・ペインティング)。九一年に着手したカラー作品のプロジェクトを完成させようと思っています。クリントンの就任式やロシア大統領選挙など、世界各国の政治的、歴史的イベントを網羅したもので、過去の世紀における「歴史を描いた絵画」(ヒストリー・ペインティング) からインスピレーションを受けました。ひとつの事象に対して作品一点を選

び、もともとの歴史絵画のインパクトあるサイズに見合うよう、展覧会では二〇〇×二五〇センチメートルのサイズにするつもりです。写真集のサイズについては未定です。

インタビュー／編集部 協力／マグナム・フォト東京支社